

環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生
がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



岩松 将一教授

【今回の授業】都市環境総合プロジェクト

「マイクラフトを利用した仮想空間でのSDGs都市構想」

都市環境学専攻の土木、建築、化学、情報系教員がタッグを組み、学問領域の壁を越えて、さまざまな環境問題の解決に向けて研究・教育を実践する「持続発展学コース」。その創設以来続くのが、この授業。講義とワークショップを組み合わせ、毎年3日間、集中開講されています。めざすのは、このコースの特徴でもある異分野協業による課題解決と価値創造スキルの体得。企業研修のプログラムを大学院向けにアレンジし、内容をアップデートさせながら継続してきました。「座学の多い大学院のなかで、一つくらいこういう授業があった方がいい。異分野の人たちと協業することの難しさ、楽しさを体感してほしい」と岩松先生。

ワークショップを重視してきたこの授業が危機に直面したのが、コロナ禍でした。みんなが集まらない中でどう対応するか。解決策として考え出されたのが、マイクラフトの活用。学生に親しみのあるマイクラフトを使って、仮想空間の中にSDGsを実現する都市をつくらうというものです。都市環境学専攻を中心に多分野にわたる受講生は、まず講義でSDGsの17目標と169のターゲットをしっかりと頭に入れ、自分たちが何を実現したいのか、そこから話し合ってワークショップに臨みます。「コロナ禍の緊急対応でしたが、実はすごく時代に合っていて、仮想空間で実現できることを、次はリアルで実現するにはどうしたらいいか。二つの駆動で考えていくことにもなります」と長尾先生。

初対面もいるメンバーとともに、講義とワークショップに格闘する3日間。チームとしてどう力を出せたか、自分はどんな役割を果たせたのか。そこから生まれる気づきは、学生たちが社会に出た時に、きっと生かされていくことでしょう。



成 若鳴さん Cheng Ruoming

都市環境学専攻
博士前期課程1年



この授業では、ケーススタディとグループワークを通じて、環境問題を体系的に捉える力を実践的に養うことができました。特に、異なる背景を持つ学生との交流から、多様な視点を学ぶことができた点が非常に有意義でした。マイクラフトを使ったグループワークでは、意見をまとめる役割分担を調整する難しさを感じつつも、チームで目標を達成する喜びや達成感を味わいました。特に、最後のグループ発表では、他のグループや先生方々からのコメントを通じて、自分たちの視点の不足に気付くことができ、大きな学びとなりました。今後の研究や実践に役立てたいと思います。

山崎 泰雅さん Yamazaki Taiga

都市環境学専攻
博士前期課程1年



この授業では、協働に関するビデオを鑑賞、グループで議論した後、マイクラフトを用いて実際に多様な生徒と協働しながら、ゲーム内世界を現実に見立ててSDGsに関連した課題の解決を目指します。多様な背景を持つメンバーとの協働力を養うとともに、SDGsの17の目標や169のターゲットについて多角的に考えることで、環境対策に関する具体的な洞察を深めることができます。

通常の授業では得ることのできない実務に役立つ貴重な経験を
得ることができるので、自身の研究の分野にかかわらず、受講することをお勧めします。